

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073500284		
法人名	医療法人恵真会		
事業所名	グループホームめぐみ		
所在地	福岡県糸島市志登567番地1 (電話) 092-330-6111		
自己評価作成日	平成23年6月20日	評価結果確定日	平成23年9月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームめぐみでは、利用者の方の「出来る力」を大切に、回想法（食事の準備・後片付け・裁縫・洗濯物たたみ等）を通して、それぞれの出来る力に応じ役割を持っていただき、仕事を持つ喜びを感じて頂く様に取り組んでいる。食堂には、職員と利用者様で力を合わせた「季節の花の作品」を掲示し、ベランダには野菜や花を植え、生活の中に季節を感じて頂く様にしている。又、御本人の希望に応じ、個別対応で買い物・食事・ドライブ等にお連れしている。日々の役割や楽しみを持つ事で、生きがいを持って、安定した生活が送れるように支援させていただいている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html">http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成23年7月11日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

田園風景が広がる自然豊かな環境の中に位置する事業所で、老人保健施設に隣接している。平屋建てでゆったりとした木の温もりを生かした家庭的で暖かみのある和やかな雰囲気である。利用者の「出来る力」を大切に、管理者や職員が一同となって利用者主体のサービス提供を心がけ、自信や喜びにつながるケアを実践している。他者の優れているところを発見し伸ばす視点が職員間の中で形成されていて、チームワークも抜群である。周囲に民家が無い田園の中に位置する立地条件であるが、地域交流は工夫を凝らして力を注いでいて、家族や地域住民から信頼されている様子が随所に伺える。質の高いケアを実施するために職場環境を整え、職員教育に力を入れている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関と職員室に理念を掲示し、毎日申し送り前に唱和している。理念に添った心豊かな生活を送って頂けるように、縫い物や台所仕事（回想法）をしていただく事によって、役に立っていると自覚して頂き、又、個別対応を行う事で楽しみと生きがいを持って頂けるように支援している。	職員全員で作成した事業所独自の理念に「地域の中で」という地域密着型の視点がある。事業所の理念を玄関と職員室に掲示して常に意識している。朝礼やミーティング時に話し合い、理念の実践に向けて言葉かけ・態度などで日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年3回保育園の慰問があったり、校区の文化祭に作品を出品し、見学に行っている。隣接する老人保健施設との合同行事「あじさい祭り」では、フリーマーケット・バザー等で出店してもらったり、近隣の多くの方に参加して頂いている。	事業所便りを地域に配布し、近隣の保育園と定期的な交流がある。公民館や地域のギャラリーに利用者の作品を出品し、見学に行ったり、ベルマークを集めて小学校に寄付する等の取り組みもある。隣接する老人保健施設との合同祭りでは、多くの地域住民が出店・参加している。隣近所の人からのおすそ分けなど日常的な交流がある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回「めぐみホーム便り」を地域に配布し、ホームの紹介や日常の様子を伝えている。「あじさい祭り」の時には、ホームの見学をしてもらえるように案内をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会・敬老会・避難訓練・保育園の慰問等に運営推進委員に参加してもらい、その都度ご意見を頂き、改善するように努めている。その他の行事や公表・外部評価も報告・相談をしている。	運営推進会議は定期的開催している。メンバーには利用者と家族・民生委員・包括支援センター職員・市職員・ボランティア代表者等が参加し、現在の取り組み状況や今後の活動計画などを報告している。委員には行事や避難訓練にも参加してもらい、意見や要望は日頃のケアに結びつける取り組みを行っている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、糸島市介護保険サービス事業者連絡会に参加している。緊急案件がある場合は、市役所へ訪問したり、電話などで相談している。運営推進会議の案内を毎回行っているが、参加は少ない。	行政との連携を密に取り、サービスに関する課題の話し合いを行い、課題解決に向けた協働を行っている。事業所便りを行政に持参したり、事業者連絡会に参加する等の取り組みがある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、毎年外部や内部での勉強会を行っている。玄関前は駐車場であり、道路も車の往来が多い為、御家族の許可を頂いて施錠している。外出希望がある時は、なるべく一緒に出かけるようにしている。その他の拘束は行っていない。言語的拘束も行っていない。	河川や駐車場が近く、危険性があるため、家族の許可を得て玄関は施錠している。身体拘束に関するマニュアルを整備し、職員研修を確実にしている。外出傾向の把握や付き添いに努めている。	開放的に地域との関わりが持てる事業所に向けて、実践されている職員研修等を活かし、数時間でも玄関を開けられるケアを実践してほしい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、毎年、外部・内部での勉強会を行っている。身体的以外にも言語的虐待も行われない様にしている。又、スタッフがストレスがたまらない様に心がけている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族には、入居時に口頭・文章で説明している。家族会の議題にも取り上げている。職員は外部研修に参加し、ホーム内での勉強会も行っている。	制度について内部・外部研修で学ぶ機会を設けている。外部研修に参加できなかった職員には報告・伝達講習で情報を共有化している。制度に関して契約時や家族会等で家族に説明している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面接時に、不安な事や疑問などが無い様に詳しく説明をしている。面会時等にもその都度、御家族の思いを聞くようにしている。報酬改定がある場合は口頭・文章で説明をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族に対しては無記名アンケートを実施している。又、玄関には意見箱を設置している。面会時には、話しやすい雰囲気作りをし、利用者の方とは日々のコミュニケーションを通し、思いを組み取る様にしている。	毎日の関わりの中で利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや要望の声に耳を傾け、その把握に努めている。個別の意見や願いを叶えるように配慮している。利用者の家族からは来訪時に意見や要望を聴く、家族会で無記名アンケートを実施する等、具体的にケアに活かす取り組みを行っている。第三者相談窓口については契約時に説明している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、めぐみ会議を行い意見交換を行っている。解決できない時は、法人の統括本部との運営会議に議題を上げている。	自己評価は全職員で意見交換して取り組んでいる。代表者や管理者は、会議や個別面談を通して職員の気付きやアイデアを積極的に運営に取り入れ、職員それぞれの得意分野を活かすことができるよう配慮している。より良いサービスを行うため、管理者・職員が丸となって取り組んでいる。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員を個別に面談をし、本人の希望・要望を聞いて、働きやすい環境作りを努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、主任の意見も取り入れている。職員については、職員の特技（園芸・お菓子作り等）を生かした担当になってもらい、他職員や利用者にも教えてもらっている。又、レクリエーションでも個々の能力を発揮している。	職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢等に関係なく、資格・適性や熱意を考慮し、現場の意見も取り入れて決定している。職員の得意分野を伸ばす取り組みを行っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居時に、個人情報に関する説明を行い、契約を結んでいる。個人情報に関する説明書を玄関に掲示している。又、職員に関しては、外部研修に参加したり、ホーム内でも勉強会を行っている。	内部研修や外部研修にて全職員が人権に関する様々な学習を行っている。パンフレットや研修記録も整備されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は計画表を作成し、職員が公平に参加出来る様にしている。又、会議の中で担当を決めて研修発表をしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での活動が活発で、毎月各グループホームの担当で勉強会が行われている。又、交流会を開き、意見交換を行っている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずホームに来て頂き、御本人の要望をお聞きしたり、入居者の方達と一緒にお茶を飲んで頂いて、少しでもホームに慣れられる様にしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時、御家族の状況を理解し、話しやすい雰囲気作りをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・御家族の要望を受け止め、御本人に必要な支援を行うようにしている。慣れられるまでは面会を多くしてもらったり、御家族に泊まって頂いたりしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備・片付け・裁縫・洗濯物たたみ・掃除等を一緒に行ったり、利用者の方に漬物や干し柿の作り方を教えてもらいながら、共に暮らしているという事を忘れない様にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が自宅の庭に咲いている花や果物を持参された時は、食堂に飾ったりおやつにお出しして、季節を感じて頂く様にしている。「あじさい祭り」のバザーの協賛品も持ってきて頂き、協力して頂いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医に継続して主治医を御願している。キーパーソン以外の御家族にも、行事参加のお誘いをしている。面会時は御本人との時間を大切にもらえるように、居室でゆっくりとして頂いている。	利用者の馴染みの人や場所について本人・家族から聴取して把握している。利用者が働いていた職場に行く、近所の馴染みの方に訪問してもらう等、つながりを継続できるように努めている。近隣に対してはスーパーや商店街で買い物を共に行い、自然に顔なじみになってもらうなどの取り組みがある。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂のテーブルの座席位置を考慮したり、散歩やドライブ等は仲の良い方を一緒に声掛けするようにしている。1人になられている時は職員が側に座り、孤立されない様にしている。又、利用者同士の支えあいも危険がない限り見守りを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時は面会に行ったり、御家族とも連絡を取っている。退院前は、御家族や医師と相談しながら再入居して頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	御本人の希望を聞いたり、日常生活の中で何気なく話される小さな事などからも、その方の思いを引き出し、受け止めるようにしている。	職員は毎日の関わりの中で利用者に声をかけ、何気なく交わされる日常会話の中からも思いや要望を引き出すよう努めている。意思疎通の困難な利用者には家族から情報を得て、利用者本位の支援を検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで使用されていた箸・茶碗・家具・寝具・仏壇などを持ってきて頂いている。自宅で使用されていた編み物セットを持ってこれ、居室で編まれている方もいる。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックをしている。職員と一緒に縫い物をしたり御菓子作りをしたりして、毎日の生活の中で出来る事等を把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニットカンファレンスの中で、情報の交換・共有を行い、御本人・御家族の希望も聞きながらケアプランを作成している。	介護計画は利用者・家族の思いや意向及び全職員の気づきを取り入れて作成している。介護計画の目標を常に意識しながら実践している。家族へ説明を行い、同意の署名・押印を貰っている。6ヶ月に1回、または、利用者の状態変化等に応じて随時、介護計画の見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、朝・夕の申し送りをしている。大事な事は申し送りノートに記録し、全員が読むようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別で買い物やドライブに行っている。その方に応じて編み物・裁縫・料理等、好きなことをして頂ける様にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区の文化祭に参加したり、近くの保育園の慰問（年3回）を受けたりしている。避難訓練は消防署に協力していただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診してもらっている。かかりつけ医がない場合は紹介している。	本人及び家族等の希望を大切に、今までのかかりつけ医に受診している。通院介助は家族が主であるが、急変時や家族が対応できないときは、職員が同行している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は看護職員に状態を報告・相談している。又看護職員は併設する老人保健施設の看護師長と密に連絡を取り合い、情報を共有している。急変時や状態に変化があった時は御家族への報告・受診を早急に出来る様に対応している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は、直ぐに面会に行き、治療方針等を聞き、病院側の相談員と連絡を取りながら早期退院が出来る様に働きかけている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に御家族と話し合いを行う様にしている。又、状態変化時に頻繁に話し合いを行っているが、まだ看取りはない。	重度化した場合や終末期のあり方についての方針があり、利用開始時に説明している。本人の意向を大切にしながら、状態の変化の時々家族・かかりつけ医、職員と話し合いを行い、全員で方針を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員室にマニュアルを貼っている。外部研修後はホーム会議で研修報告を行い、内部研修も定期的に行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月毎に避難訓練を行い、年に1度消防署立会いで指導してもらっている。隣接の老人保健施設の訓練にも参加している。防災センターでの研修やホーム内研修も定期的に行っている。	マニュアルを整備している。2ヶ月毎に年6回避難訓練を消防署の協力を得て実施している。民生委員等に呼びかけをしているが、参加には至っていない。非常用飲食物、防寒等の備品は隣接している老人保健施設で準備している。	現状でも災害対策は十分であるが、安全管理をより確実に行うために、災害対策用の備品等については、できれば事業所毎に準備をお願いしたい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションを充分に取り、信頼関係が築けた中で、糸島の方言を用いる等その方に合った言葉掛けを行っている。トイレ誘導時等は他の方に聞こえないように声掛けしている。	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように、言葉かけや対応に配慮している。個人情報の取り扱いについては、ミーティング等で職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で一人ひとりの思いをくみ取るようにし、自己決定が出来るような声掛けをしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態・様子に合わせてケアの声掛けを行っている。昼寝をされたり、居室で編み物やテレビを觀賞されたり、廊下で歩行訓練をされたり、台所の手伝いをされたりしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隣接の老人保健施設の理美容でパーマ・カラーをされている。行きつけの美容室に行かれる方もいる。季節に合った好みの服を着られるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	雛祭りには「ちらし寿司」、忘年会で郷土食の「そうめんちり」・「にぎりずし」、季節の「豆御飯」「うなぎ」等もメニューに入れている。毎月、「刺身」や「助六」もお出ししている。「餃子」作りやお菓子作りにも積極的に参加され、進んで食器洗い・食堂の掃き掃除等をされる。	職員と利用者は、一緒に準備・食事・片付けを行っている。職員は利用者と同じテーブルにつき同じ内容の食事を食べていて、和やかな雰囲気である。献立には郷土食や季節を感じる事ができる行事食も豊富で、利用者の好みも十分に取り入れている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者の栄養士がメニューを作成し、それを職員が利用者の方に合う様に見直している。食事量チェックを行い、水分量もその方の状態に合わせて摂取してもらう様声掛けをしている。又、個々に応じて、食事を食べやすい様に刻んでお出ししている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の口腔ケアを行い、義歯の方は定期的に洗剤を使用している。食事の最後にはお茶を飲んで頂く様にしている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が排泄パターンを把握する様に努め、個々の時間に合わせてトイレ誘導の声掛けを行い、便座に座っていただくようにしている。	利用者個別の排泄記録に基づき、排泄パターンを把握して誘導などを行っている。失禁した際は周囲に気付かれないように配慮して対応している。おむつやパット類を使用する時は、状態に合わせて検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の有無を確認し、便秘時は牛乳を飲んでもらったり、腹部マッサージを行っている。下剤に関しては、医師と相談して調節を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、入浴時間は希望に添う様にしている。個人の入浴スタイルに合わせて声掛けをしている。	入浴日は設定されているが、利用者の希望に合わせて時間帯を決める等の支援を行っている。入浴を拒否される場合は、誘導を工夫したり対応職員を交代させたりしてタイミングを図って入浴を行っている。季節にあわせてゆず風呂等を楽しんでもらう時もある。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食堂や長椅子でウトウトされたり、昼寝をされたりしている。夜も、その方に合った時間に就寝介助をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の説明書をカルテに綴じている。状態に合わせ、服薬介助を行っている。服薬開始時は症状の変化に気をつけている。服薬前には、再度名前の確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	連続ドラマを見られたり、居室で編み物をされたりしている。食事の準備・後片付け・掃除・おやつ作り・洗濯物たたみ等その方に合った事をされるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回バスハイクを行っている。個別対応の出来る方は、買い物や昼食・おやつを職員と共に外出して行っている。	利用者の体調や天候にもよるが、散歩は週3、4回、ドライブや買い物は週1、2回、外食は月1、2回の外出を実施している。また、季節に応じて初詣や花見、クリスマスのイルミネーションの見学等も行っている。年に2回はバスハイクを行っている。個別の希望に応じた外出支援も実施している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来る方は所持され、買い物の時自分で支払われている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話が設置されている。自己にて使用できない方については、職員が介助している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・食堂・トイレ等には、花を飾ったり食堂や廊下には写真や作品を貼っている。室温や照明はその都度調整し、過ごしやすい環境作りに努めている。	共有空間は、座り心地の良い椅子やソファが配置され、思い思いの場所で座ったり横になったりして自由に過ごすことができる。清潔感があり採光も適当である。季節の花や利用者が作成した作品等で飾られている。広々としたウッドデッキで野菜菜園や干し柿・漬物作り等を利用者と職員が共に行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の座席の位置を考慮している。食堂にソファ、廊下にベンチを置いており、好きな所で過ごせる様に配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた寝具・家具を持ってきて頂いている。仏壇や冷蔵庫・テレビ等も持ってこられ、居心地よく過ごせる様にして頂いている。	居室には、ソファ、テレビ、冷蔵庫、仏壇、位牌等の馴染みの物が自由に持ち込まれている。家族写真や人形等好みの物で飾られ、個性が感じられる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には手すりを設置している。トイレ・風呂場には分かりやすい様に暖簾を掛けている。トイレは目の高さの場所に目印をつけている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつまでも地域との関わりのある生活をして頂きたい。その思いを込めた理念を、職員全体で作上げた。毎日、朝の申し送り時に職員全員で唱和し、理念を念頭に入れたケアに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に保育園児の慰問を受けたり、校区の文化祭などに出かけたりしている。隣接する老健との合同行事「あじさい祭り」では、地域の方々にも参加してもらいフリーマーケット・バザーなどを開催し、地域との交流を図っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中でGHめぐみの様々な報告を行い、行事・敬老会・慰問などにも参加してもらい認知症の方への理解を得ている。又、地域に発行している「めぐみホーム便り」等で、「お困りの事などありましたらご相談下さい。」と呼びかけたり、あじさい祭りの時など見学会を開催し相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事報告・外部評価・公表調査についての報告、消防署立会いの避難訓練などを行いそれに対してご意見を頂戴している。又、委員の方々からアドバイスを頂き良いサービスが出来るように取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中でもホームの状況等を報告したり、介護保険更新時、直接市の方に伺っている。その際、分からない事があった場合は相談をして協力を得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に沿って、お一人おひとりの人格を尊重しているため身体拘束はない。但し環境的に道路の交通量が多い事から、玄関に施錠している。又、身体拘束マニュアルを作成しており全員が理解している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やホーム内での勉強会などで学び合い、虐待防止に対する意識は職員間で正しく理解している。又、委員会を設け虐待防止のマニュアルを作成している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県主催の研修やホーム内での勉強会を開催している。又、家族会でも家族の方々に制度内容を説明し、ご意見を聞いている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文章・口頭で説明を行い、理解納得を得ている。不安・疑問点は、面会時や家族会の際などいつでも返答出来る様にしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を各ユニットに設置している。又、家族会を行なうにあたり事前に利用者御家族全員にアンケートを発送し、家族会・運営推進会議でアンケート結果を報告している。尚、アンケートでのご意見に対しては職員でカンファレンスを行い迅速に対応をしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行なわれている全体会議の中や、各ユニットカンファレンスの中でも、情報交換・意見交換の場を設けている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個別に面談をし、本人の希望・要望を聞いて働きやすい環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、主任の意見も取り入れており、職員にはそれぞれの得意分野でホーム内の係りを担当してもらっている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎朝の申し送り時に、めぐみの理念、毎月定める接遇目標を皆で唱和している。毎月のユニットカンファレンスにおいても、認知症の方のBPSDについて勉強会を行なっている。又、人権教育に関する研修に参加している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は計画表を作成し、職員が公平に参加出来る様にしている。又、会議の中で担当を決め研修発表をしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、Cブロックでの活動が活発で、毎月各グループホームの担当で勉強会が行なわれている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族とのケアカンファレンス時、御本人にも参加して頂き、要望や困っている事などを伺っている。意思表示・困難な方については、密にコミュニケーションを図り信頼を構築している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时・契約時、御家族の意向を十分に傾聴し、その後も御本人の状況をその都度報告し要望になどに応えられるよう努めている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の御家族との面会時、生活暦を伺い御本人・御家族の希望を聞き出し、より必要なサービスを提供出来るよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方と常に寄り添い、それぞれの利用者の方にあつた役割を持ってもらっている。食事の準備・ゴミ集め・花の水遣りなどを職員と共にしない、仕事を持つ喜びを味わってもらう様努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な病院受診・急変時などの病院受診も御家族の協力を得ている。又、利用者様の要望で「電話で家族と話したい。」と言う場合も協力してもらっている。常に御家族との連絡報告をしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の方だけでなく、親戚や知人も面会に来て頂いている。又、御家族の方の了承を得て自宅近くに行ったり、勤められていた店舗などに行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合う利用者の方を同じテーブルにしたり、安心される利用者の方の側に座ってもらったりすることで、一緒にトイレに行かれるなど行動を共にする場面が見られる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何らかの理由で病院や他施設に移られた方に対しても面会に伺っている。又、いつでも相談に応じる姿勢を示している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思伝達が可能な方には、直接要望などを聞いている。又、困難な方の場合は、日常の言動に目配り・気配りをし、御本人の意向や今何が必要なのかを常に考えている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴や生活環境などを御家族の方より聞き、入居後においても御自分の事を話せる方には直接お聞きしている。又、話せる関係が築けている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・申し送りで、それぞれの利用者様の過ごし方を職員全体が把握しており、その上で心身状態などの観察、気づきを持つよう日頃から努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てる際、センター方式を取り入れ御本人・御家族・医療関係との情報を共有し、介護計画を立て6ヶ月毎に見直しをしている。利用者の方の状況に応じその都度見直しをしている。又、月1回のユニットカンファレンスにおいてもケアのあり方について話し合いが十分に出来ている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、御本人の言われた事、行動を客観的に記録し、毎朝の申し送りやスタッフ個人で記録を読み現状把握をしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人が今何をしたいかを考慮し個別対応をしている。（ドライブ・買い物・急変時の対応）		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的（2ヶ月に1回）に消防署と連携して避難訓練を行なっている。又、ボランティアの方にお話に来て頂いたり、校区文化祭への出展などを行なっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの主治医があり、安心して受診・往診をして頂いている。緊急時は、御家族での対応が無理な場合は、職員が同行している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の方の状態に応じて迅速に対応できるように、常勤の看護職員に常に連絡・報告をしている。又、ホームの看護職員は介護職員からの情報をかかりつけの医師・看護師に伝え、相談しながら利用者様の健康管理、医療支援に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院側と密に情報交換を行なっている。病院側より早期退院の依頼をされた時は、直ぐに受け入れを行なっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に御家族と話し合いを行なう様にしている。又、状態変化時には頻繁に話し合いを行なっているが、まだ見取りはない。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	県主催の研修やホーム内の勉強会などを行い実践出来る様、それぞれの職員が意識を持っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回消防署と連携し避難訓練を行っている。又、年1回消防署員立会の下、運営推進委員の方も参加して頂き避難訓練を行っている。地震・水害に関してもマニュアルを作成しており話しあっている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方一人ひとりに合った言葉遣いや対応を行なっている為、方言（糸島弁）でお話しする場合もあるが、尊厳は守っている。プライバシーを尊重したケアを行なっている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人が希望や思いを言える様な声掛けを行い、遣り甲斐を引き出せる様に支援を行なっている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を送ってもらう様、何事に対しても無理強いせず好きな様に過ごしてもらっている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ本人の意向を尊重しているが、体温調節が難しくなっている利用者の方には過剰な厚着にならない様に支援している。又、整容の声掛けが必要な方には、声掛けにて行なっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の物を献立に必ず入れており、日常の食事を通して季節の味を楽しんで頂く工夫をしている。利用者の方の能力に応じて野菜を切ったり、片付けをしていただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスにおいては、献立を外部業者の管理栄養士に依頼している。水分摂取は朝食後1回・入浴後・おやつ時・毎食後必ず補給してもらい、各居室に朝夕配茶を行なっている。又、水分補給の少ない方には好きはコーヒーなどを飲んでいただいている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕食後、口腔ケアを行なっている。利用者の方の状態に応じてケアを行なっている。義歯使用の方には洗浄剤を使用している。拒否がある方以外は、就寝時義歯を外してもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を確実に記入し、排泄のパターン、便秘、薬の服用時間などを考慮しトイレ誘導を行なっている。又、夜間帯にはポータブルトイレを使用している方もいる。朝・夕の排便後には下清拭を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝起床後の冷ミルクや、廊下での歩行運動、腹部マッサージなど出来るだけ自然排便を促している。便秘薬使用も便の状態に応じて薬の使用を判断している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は決められているが、利用者の方の希望する時間帯があれば希望時間に入って頂いている。又、季節に応じてゆず風呂などを楽しんで頂いている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活のリズムを尊重し休息なども自由にしてもらっている。午前中に体操などを行っている。夕方から就寝時前のお茶はカフェインの含まれない麦茶を飲んで頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の担当者はケアプラン（センター方式 私の療養シート）を立てる事により把握している。又、カルテに薬説明書を保管し、変更があった場合申し送りノートに記入し、職員全員が把握出来る様にしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の出来る事を把握し、家事・花の水遣り・ゴミ集めなどの役割や作品作り・ドライブなど一人ひとりが活躍出来る場面に合った支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1日の状況に応じて外出出来る日は、ドライブ・散歩に出かけている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金に関しては、御本人・御家族の意向を尊重しており、管理の出来る方には所持金として使えるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人希望時にいつでも電話をかけられる様にあらかじめ家族より電話代を預かったり、立替をしており、能力に応じた支援を行なっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には利用者の方と一緒に作った時季に合った作品を掲示し、居間に面したベランダには季節の花・野菜を植えて快適な空間作りをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルは気の合う方を同席にしている。又、テレビ前には長椅子を2脚用意しており廊下や玄関横にもベンチを設置している。陽が当たる場所で1人になりたい方には椅子を移動し過ごしてもらっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ利用者の方の馴染みのある家具・品物を持ってきて頂いている。お位牌などを持ち込まれた方もあり、居心地よく過ごして頂ける様に配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂はオープンキッチンでいつでも利用出来る様にしており、I・Hを使用している。段差は無く・廊下・トイレ・風呂場には、手すりを付けており車椅子対応にトイレドアをカーテンドアにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない